

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4071501060		
法人名	社会福祉法人 東翔会		
事業所名	グループホーム ふぁみりえ		
所在地 (電話番号)	福岡県大牟田市沖田町492 (電話) 0944 - 43 - 1223		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年5月27日	評価確定日	平成21年7月8日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤	22 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 24.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 (準耐火) 造り		
	1 階建ての 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	(45,000~68,200)円		その他の経費(月額)	(水光熱費等)一日400円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円	
	夕食	500 円	おやつ	円	
	または1日当たり 円				

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	26 名	男性	4 名	女性	22 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東原整形外科病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して9年目となる「ふぁみりえ」は、福祉国家デンマークとの研修交流での学びを理念につなげ、日々の支援での実践を目指して取り組んでいるグループホームである。はやめ南人情ネットワークの実践的な活動を通じて、地域との密接な関係があり、また地域交流施設(きてみてテラス)を活用し、入居者も調理準備や接客に参加する「ささやかカレーの店(150円)」が出店されている。地域の小中学生との継続した交流により、認知症の理解や思いやりを育みながら、入居者との馴染みの関係が深まってきており、ホームの庭で卒業生の記念植樹も行われている。入居者と地域社会とのつながりを支えながら、様々な関係者との連携により、「誰もが安心して暮らせるまちづくり」を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の自己評価及び外部評価での課題を、会議等にて話し合いを重ね意識を共有し、改善に向けて具体的に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を日々の支援の確認・点検・見直しの機会として捉えており、職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	併設する小規模多機能型事業所との合同開催や家族会を同時に行う等、多様な内容で定期開催されている。また地域ネットワークや地域ボランティア、近隣中学校長等の幅広いメンバー構成があり、入居者も毎回参加している。事業所からの報告や意見交換が活発に行われ、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議・家族会等において、家族が意見・要望を表せるよう、工夫や関係づくりに努めている。運営推進会議の中で入居者より「旅行に行きたい」との要望があり、実現している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域ネットワークの一員としての交流や地域行事(お祭り・清掃活動など)への参加、情報発信等により、日常的に地域との交流がある。小・中学校の運動会(入居者の参加プログラム有り)に招待を受けたり、地域連携施設を利用して入居者も参加しているカレーの店を出店している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	入居者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、その人らしい人生の継続の支援に、“ゆっくり・じっくり・しっかり”と寄り添っていくという独自の理念が創られており、地域密着型サービスとしての意義も盛り込まれた内容となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	独自の理念と共に、ケアの10姿勢を方針として具体的に示している。新人研修では必ず理念・方針についてふれ、理解と共有を育んでいる。またユニット会議やカンファレンス、勉強会等でも話し合いが行われ、日々の支援の場面で理念と実践が結びつくよう取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域ネットワークの一員としての交流や地域行事(お祭り・清掃活動など)への参加、情報発信等により、日常的に地域との交流がある。小・中学校の運動会(入居者の参加プログラム有り)に招待を受けたり、地域連携施設を利用して入居者も参加しているカレーの店を出店している。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価を日々の支援の確認・点検・見直しの機会として捉えており、職員全員で取り組んでいる。改善課題については会議等で話し合いを重ね、サービスの質の向上に活かしていく取り組みがある。評価に対する真摯な姿勢と、より良い支援に向けて積極的な取り組みがある。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	併設する小規模多機能型事業所との合同開催や家族会を同時に行う等、多様な内容で定期開催されている。また地域ネットワークや地域ボランティア、近隣中学校長等の幅広いメンバー構成があり、入居者も毎回参加している。事業所からの報告や意見交換が活発に行われ、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム ふぁみりえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	大牟田市職員の研修や、あんしん介護相談員の受け入れが行われており、情報の交換・共有により、密接な連携が築かれている。地域のみならず大牟田市の認知症ケアの向上に向けて、協働関係がある。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や成年後見制度についての勉強会を開催し、また地域包括支援センターとの連携により、必要な場合に活用できるように、知識を深めている。今後は全職員への理解が更に深まるように、学習の機会を重ねていきたいと考えている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の訪問時に状況報告や金銭管理の確認を行い、また定期的な通信や手紙、電話・メール等を活用して、状況報告を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議・家族会等において、家族が意見・要望を表せるよう、工夫や関係づくりに努めている。運営推進会議の中で入居者より「旅行に行きたい」との要望があり、実現している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	管理者は馴染みの職員による支援の重要性を認識しており、やむを得ず離職や異動(職員のスキルアップやバランス、ストレスケア)が発生した場合にも、入居者へのダメージが最小限となるよう配慮を行っている。また日頃からユニット間の交流が図られており、馴染みの関係づくりが日常的に行われている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の募集・採用にあたっては、常に人権の尊重・平等・公平を重視して行われている。個々の能力が発揮できるように、また社会参加・自己実現へ向けての配慮・支援に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム ふぁみりえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人全体として、人権の尊重やノーマライゼーションを理念として掲げ、年1回実施されているデンマークへの研修派遣をはじめとして、内外の研修を実施・参加を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	「ふぁみりえ」の特筆すべき点の一つとして、年1回のデンマークへの研修派遣が実施されており、福祉先進国からの学びを、日々の支援に活かしている。その他にも内部研修(事業所・法人合同など)や外部研修への参加を積極的に促している。また資格取得への対策研修も行っている。		充実した研修体制と実施状況がある。今後は更に、年間計画の中で研修を行いたいとの意向があり、実践に向けて取り組んでいる。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会や認知症ケア研究会の中核としての役割を担い、同業者との交流が積極的に行われており、質の向上に向けて協働関係が築かれている。今後は法人内のグループホームとの交流を予定している。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人や家族と十分に話し合いを行いながら、自宅への訪問や体験利用等を通して、馴染みの関係づくりに努めている。本人のペースを大切に、安心して入居ができるよう、柔軟な対応がなされている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	年長者である入居者の方々から、日々学ぶことは多い。新人職員が入居者に仕事を教えてもらったり、誉めもらうことで成長していく姿もある。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム ふぁみりえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	アセスメントの一部にセンター方式を活用しながら、日々の暮らしの関わりの中で意向の把握に努め、また行動・表情から真意を汲み取るようにしている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	独自のアセスメント様式やケアプランシートを活用している。本人・家族の要望を大切に、担当職員・主治医・認知症専門医等の意見を参考にしながら、本人本位の個別具体的な計画作成に努めている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	基本的には3ヶ月に1回、評価・見直しが行われている。本人・家族の要望や状況に変化が生じた場合には、カンファレンスを行い、臨機応変な見直しが行われている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	医療連携体制の充実があり、それを活かした早期退院の支援や、日々の暮らしを継続するための柔軟な支援が行われている。特別な外出や旅行、ホームでの家族宿泊への支援が行われている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向を大切に、かかりつけ医により、適切な医療が受けられるよう支援している。認知症専門医の週1回の往診があり、適切な指示・助言を受け協力関係が築かれている。介護職員による日々の関わりの中での気づきや、看護職員による健康管理により、状態の変化に早期に対応することに努めている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム ふぁみりえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	本人の意向を最大限尊重し、家族の意向を常に確認する看取り支援の基本方針を示している。重度化・看取り支援に関する意向確認書を作成し、状況の変化に応じて繰り返し話し合いを重ね、方針を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者一人ひとりの尊厳を最大限尊重するという、基本理念や方針を、日々の支援の中で常に振り返り、意識の向上に努めている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	職員・入居者による「寄り合い」を開き、一人ひとりの入居者の「その日」の希望を大切にスケジュールを話し合い、充実した一日となるよう柔軟に支援を行っているユニットもある。入居者のペースにそって、自己決定を尊重する姿勢があり、実践に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調理や後片付けに個々の希望や能力を活かした参加がある。週に1度、入居者の希望するメニューを買い物から共に行う日を設けている。入居者と共に食卓を囲み、それぞれのペースで食事を楽しんでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者の希望や習慣、状況により柔軟に支援が行われている。菖蒲湯やゆず湯など、入浴を楽しむ工夫もなされている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム ふぁみりえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントが充実しており、一人ひとりの生活歴や得意分野の把握に努めている。ピアノや書道・囲碁、料理や絵を描くなど、地域やなじみの方々の協力も得ながら、役割や楽しみごとの場面づくりに配慮している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の希望や天候、状況により、散歩や買い物、ドライブなどに出掛けている。車椅子を利用しての外出や、なじみの場所へ出掛ける支援も行っている。敷地が広く、戸外に出やすい環境にある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中鍵はかけていない。見守りや所在確認の徹底、また地域ネットワークとの充実した連携により、安全面に最大の配慮を行いながら、入居者の自由な生活を支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	毎月15日が防災の日と定められており、職員間でのシミュレーション訓練等により、災害対策への意識付けを徹底している。法人合同での訓練が年2回行われており、また事業所としても地域や家族、消防の協力を得て、年1回昼夜を想定した災害訓練が行われている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事や水分の摂取量を毎日記録し、把握・共有に努めている。一人ひとりの状態や能力に応じて、柔軟な支援を行っている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム ふぁみりえ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	ゆとりある広さを持つ共用空間は、プライバシーに配慮された設計となっている。3箇所の和室スペースが設けられているユニットや、掘り炬燵のある広い和室があるユニットもある。また各所に配置されているソファーにより、居心地良く、くつろげる空間が確保されている。南向きの広いウッドデッキがあり、四季折々の空気を感じることができる開放的なつくりとなっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	多様なタイプの居室があり、各部屋にはキッチン・洗面等の水場が設けられている。馴染みの物や写真、仏壇などが持ち込まれており、生活感のある、その人らしい居室となっている。家族による誕生会が居室で開かれたり、宿泊する場合もある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			